

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 原 勲・和歌山県立医科大学・教授）

研究要旨

現在日本泌尿器科学会のがん登録に関しては腎癌、前立腺癌を始め一時的にすべて中断しているような状況となっている。2018年4月からの新専門医制度導入と連動しながら、泌尿器科領域においても現在外科領域で行われているような手術のNCD入力開始が開始されることとなった。さらに腎癌および前立腺癌に関してもAMEDからの支援を得られることとなり手術症例だけではあるが、NCDを利用した臓器がん登録が再開することとなっている。

A. 研究目的

臓器がん登録（腎癌登録）の課題解決のための方策を以下の点から検討する。

- ① 現在の登録システムの問題点
- ② NCDとの連携
- ③ 全国がん登録との連携

B. 研究方法

① 現在の登録システムの問題点

腎癌登録は日本泌尿器科学会が母体となりがん登録推進委員会において施行されてきた。対象施設は1200施設に依頼しているが実際の登録は約330施設（28%）にとどまっている。また泌尿器がん登録として5種類（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍）のがんを取り扱っているためそれぞれのがん登録が5年に1度しか行えていない。

腎癌の最終登録年度は2013年となっており以降の泌尿器がん登録はそのシステムの見直しのためいったん中断された。一方で新たな形態としての臓器がん登録に関して学会内で検討が続けられてきた。

C. 研究結果

② NCDとの連携

2018年4月より新専門医制度が導入されることと連動し、泌尿器科領域においても現在外科領域で行われているような手術のNCD入力開始が開始されることとなった。すでに入力のためのプラットフォームは完成しており現在入力の実際に関する説明会が全国で開催されている。

さらに腎癌および前立腺癌に関してはAMEDからの支援を得られることとなり手術症例だけではあるが、NCDを利用した臓器がん登録を再開することとなり現在入力のためのプラットフォームを構築中である。

③ 全国がん登録との連携

将来的には臓器がん登録と全国がん登録がリンクしていただくことが学会として

も望ましいと考えている。

ただ、泌尿器科学会としてはNCDを利用したがん登録は始めたばかりであることを考えるとまずはがん登録としてのシステムを確立することが優先課題であると思われる。

D. 考察

泌尿器科としては今までのがん登録のシステムを一新し今後はNCDを中心に臓器がん登録を推進していく所存である。

E. 結論

泌尿器科学会としては2018年4月から手術症例に関して専門医制度と連動した登録システムをNCDの主導のもと推進していくこととなった。これと関連して腎癌と前立腺癌の臓器がん登録に関しても先ほどの手術症例登録の2階建てとして運用することが決定されている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

原著

1. Kodama Y, Kondo T, Matsumura N, Shimokawa T, Kohjimoto Y, Tanabe K, Hara I. Molecular diagnosis of lymph node metastasis in patients with upper urinary tract cancer who underwent lymphadenectomy. *Int J Urol.* 2017 Nov;24(11):799-806.
2. Matsumura N, Nakamura Y, Kohjimoto Y, Nishizawa S, Kikkawa K, Iba A, Kodama Y, Hara I. Overexpression of ribonucleotide reductase subunit M1 protein predicts shorter survival in metastatic bladder

<p>cancer patients treated with gemcitabine-containing combination chemotherapy. Int J Urol. 2017 Mar; 24(3):230-235.</p> <p>2. 学会発表 なし</p>	<p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)</p> <p>1. 特許取得 なし</p> <p>2. 実用新案登録 なし</p> <p>3. その他 なし</p>
---	---